

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
 東部教育局
 〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地
 東教発 R 7. 1. 9 No.181
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

未来を育む学校

局長 蓮佛 俊敬

新しい年、令和7年が始まりました。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年末、NHKのテレビ番組「ドキュメント72時間」の視聴者リクエスト投票トップ10が放送されていました。私も、「お盆の鳥取」を取り上げた回が何位になるのだろうと興味を持ちながら視聴しましたが、結局、全ての回を見てしまいました。1位に輝いたのは、昨年4月に放送された「国道4号線 ドライブインは眠らない」でした。24時間営業のドライブインに集う人々。それぞれの人の悩みや背景、目標は実に様々でした。ある人にとっては疲れを癒す場であり、別の人にとっては夢や希望を見出す場。そしてまた、親と子どもの繋がりを確認する場でもありました。ドライブインにあふれる「多様性」と「包容力」に深く心を動かされました。

学校もまた、同じように多様な子どもたちが集い、教師の温かい包容力でそれぞれの子どもの居場所や目標を見出す場、繋がりが持てる場です。さまざまな背景や思いを抱えて登校してくる子どもたちにとって、学校が「居場所」であり、「夢や未来を語る場」であってほしいと思います。

現在、教育現場には、不登校、学力格差、児童生徒の心の健康問題など、解決が容易でない多くの課題が山積しています。しかし、「教育とは、目には見えない種を蒔き、その実りを待つ活動である」とも言われるように、焦らず、一人ひとりに寄り添いながら種を蒔き続けることが重要です。すぐに結果が見えなくても、学校は人間性や共感力、創造力などを育む場であり、多くの「目には見えない大切なもの」が子どもたちに伝わることを信じています。

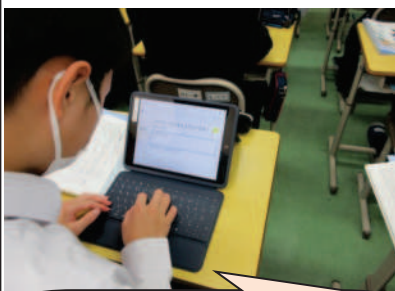
新しい年の始まりにあたり、子どもたち一人ひとりの可能性の芽が出ることを信じ、夢をもって種を蒔き続ける学校であってほしいと願っています。(なお、「お盆の鳥取」は第9位でした。)

ICT活用

ICT活用教育推進校の取組

～ 1人1台端末とクラウドの効果的な活用 ～

ICTを活用したとっとり授業改革推進事業【ICT活用教育推進校】では、1人1台端末とクラウドを効果的に活用した授業づくりを通して、自立した学習者の育成が図られるよう、実践を重ねています。ここでは、昨年12月17日に公開された鳥取市立河原中学校の授業の様子を紹介します。



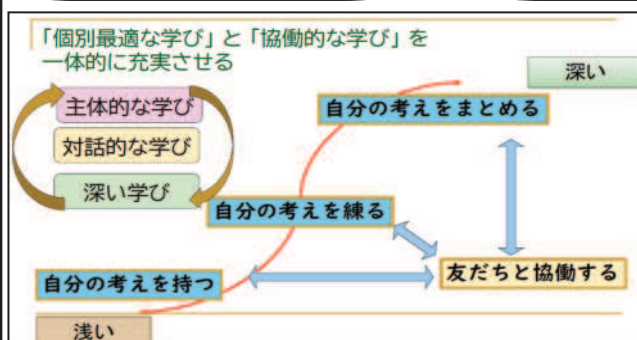
コメントやGoogleスライドを活用し自分の考えを持ち表現する。



クラウドを活用し自ら参考になる多様な意見を探す。



話し合い（直接対話）を行い自分の考えをまとめる。



道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため、クラスルームへのコメント機能等を利用し、まずは自分の考えを表現し、クラウドを活用した他者参照により多様な考えに触れ、さらに協働的に学ぶこと（直接対話）を通して深い学びへとつなげています。

どの学習場面で、ICT端末をどう活用するか、常に検討しながら実践をされています。



特別支援教育
ICT活用

障がいのある子どもたちの「わかった」「できた」のために ～鳥取市立津ノ井小学校の実践から学ぶ～

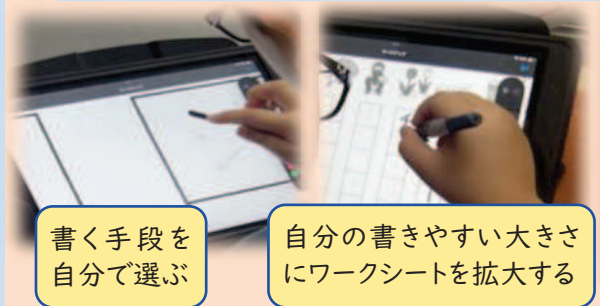
昨年11月末、鳥取市立津ノ井小学校の校内研究会で、自閉症・情緒障がい特別支援学級（1・3・4年生一斉授業）におけるICTを活用した国語の授業が公開されました。この授業では、ICTの活用を通じて個別に対応し、教科指導の効果を高める工夫が施され、協働的な学びが実現されていました。下に示す「特別支援教育におけるICT活用の視点」は、特別支援学級に限らず通常の学級でも大切にしたい視点ですので紹介します。

特別支援教育におけるICT活用の2つの視点

視点1：学習の困難さや生活上の困難さを改善・克服する

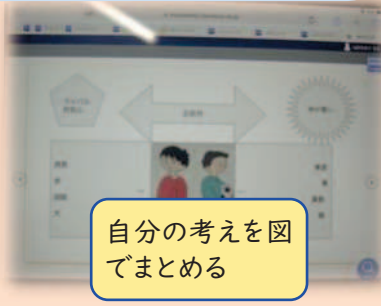
児童一人一人が、文房具の一つとしてICTを自分で選んで使っている。
※目的に応じて、どのように表現するかを自分で選択する。

ICTを活用して、発達障がいのある子どもたちのさまざまな困難を取り除き、減らすことで、子どもたちの可能性を広げることが期待できます。

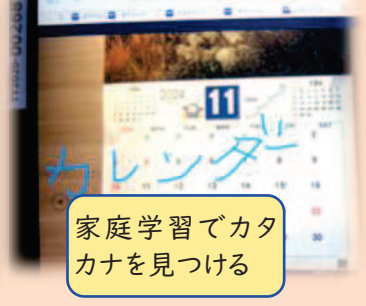


書く手段を自分で選ぶ

自分の書きやすい大きさにワークシートを拡大する



自分の考えを図でまとめる



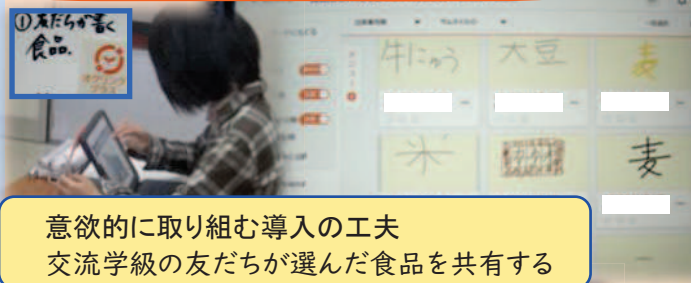
家庭学習でカタカナを見つける

視点2：教科指導の効果を高める 情報活用能力の育成を図る

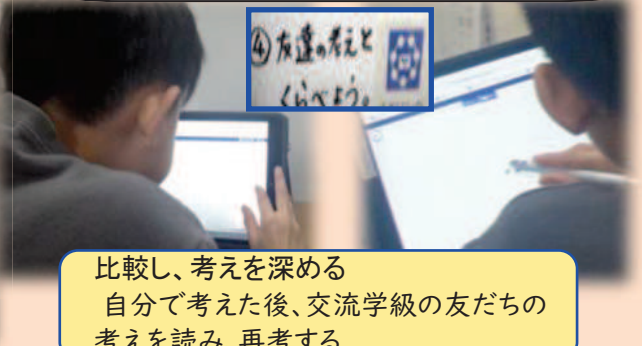
※教師がICTの活用場面を意図的に設定する。

特別支援学級は少人数で学ぶため、協働の相手が教師になりがちです。ICTを活用することで、一人一人の学びのペースに合わせながら、交流学級の友だちと協働的に学ぶことができます。

交流学級の友だちとのつながりを意識

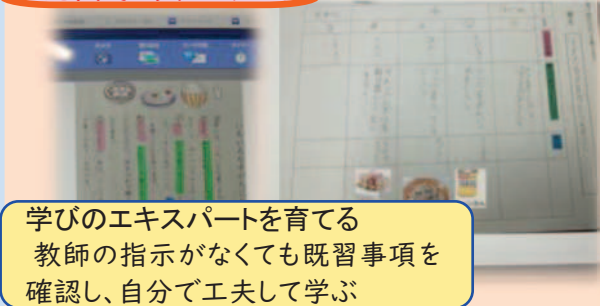


意図的に取り組む導入の工夫
交流学級の友だちが選んだ食品を共有する



比較し、考えを深める
自分で考えた後、交流学級の友だちの考えを読み、再考する

既習事項の活用



学びのエキスパートを育てる
教師の指示がなくても既習事項を確認し、自分で工夫して学ぶ



異学年の集団でも、学級の一員としての意識をもたせることを大切にしています。授業の中で互いの学びを表現する場面をICTを活用して設定しています。



加藤教諭

文部科学省のサイト

「発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック」

こちらのQRコードは、文部科学省のサイトにリンクしています。ぜひご確認ください。



「特別支援教育におけるICTの活用について」



「通常学級編」



「通級指導教室編」



「特別支援学級編」